

ルナパーク! なにわ区

浪速区制100周年プレ企画

【第4回】新世界地域

時代の先端をいていた明治・大正

区長 新世界地域は昔、西成郡今宮村の一部で、畑が広がっていました。そこからどのように開発されたのでしょうか。

上杉さん 昔、難波あたりにまちがあり、市域が広がっていきました。そして明治22(1889)年、この地域に初めて「倍楽園商業倶楽部」という施設ができました。

また「今宮臥龍館」という施設には日本初のローラーコースター(ジェットコースターのようなもの)がありました。他にも、5階建ての建物があり、大人気だったようです。でも、オープンした後、閑散としていたらしいです。あまりにもブツ飛んだ施設だったので、一般の方がついていけないかったんだと思います。

区長 そして、明治36(1903)年に第5回内国勧業博覧会が開催されました。

上杉さん 第5回内国勧業博覧会は、新世界と天王寺公園を合わせた辺りが第1会場で、堺の大浜が第2会場でした。

博覧会をこの地に引っ張ってきたのは、大阪商工会議所会頭の土居通夫さんでした。大阪の中にも何か所か候補地があったようですが、将来の大阪発展のポテンシャルが一番高い場所ということで新世界と天王寺の場所に決められたようです。本を見ると、この博覧会に450万人、多いところだと500万人程の来場者があって書かれています。

区長 博覧会は大成功だったんですね。

上杉さん 博覧会が終了し、その跡地は一時、日露戦争の捕虜収容所になりました。その後、明治45(1912)年に大阪土地建物という会社が、半分を新世界、半分を天王寺公園にしました。初代社長はさっき言った土居通夫さんです。土居さんは多分、恒久的な博覧会のようなものを新世界につくりたかったんだと思います。

松本(秀)さん お金のある人は稲田の方で遊んだ後、新世界に流れてきたそうですよ。

区長 いろいろな遊び方ができるまちだったんですね。
上杉さん 新世界のルナパークは明治45(1912)年の7月3日にオープンしましたが、7月の終わり頃に明治天皇が危篤にられました。当時としては大きな話で、新世界はコマーシャルをあまり打つことができませんでした。そして、大正12(1923)年にルナパークは閉園してしまいます。



【参加者】(後列左から)上杉和功さん、近藤正孝さん、松本文成さん、雑野裕史さん(前列左から)西上雅章さん、幡多区長、松本芳夫さん



明治天皇が第5回内国勧業博覧会を訪れたときの様子(写真提供:新世界112thフェス歴史部会)



新世界の「遊び」が書かれた絵巻物(資料提供:西上雅章さん)

令和7(2025)年、浪速区は区制100周年を迎えます。その節目に先立ち、浪速区の歴史を区内11地域の皆さんと座談会で振り返る連載企画です。第4回では、新世界の皆さんに当時の思い出やエピソードなどを伺いました。

東京の浅草、神戸の新開地、そして大阪のこの新世界が「三大演芸映画のまち」でした。大正時代の新世界には、大衆娯楽の映画館や寄席小屋、今でいう大衆演劇の芝居小屋が20軒ぐらいいったそうです。また、大正時代の新世界は花街でもあり、旦那衆のまちだったとも言っていました。小料理屋や料亭が並んでいて、芸者も千人ぐらいいったそうです。

上杉さん ルナパークを囲むように劇場や遊技場が配置されました。今の恵美須東1丁目あたりはショッピングモールでした。昔の新世界の写真の中に、家族連れや大人の方が歩いている写真が残っています。そういう風景が新世界に来ていた人々を象徴している感じがします。

松本(秀)さん お金のある人は稲田の方で遊んだ後、新世界に流れてきたそうですよ。

区長 いろいろな遊び方ができるまちだったんですね。

松本(秀)さん 道頓堀にも映画館がたくさんできて、閉館を余儀なくされました。映画館のあとにはパチンコ屋がどんどんできていき、パチンコのまちになりました。

西上さん 戦後の高度経済成長期に、釜ヶ崎(今のあいりん地区)の労働者が増えて、昭和45(1970)年大阪万博の時には1万2千人から1万4千人ほどが住んでいました。その労働者が新世界に飲み食いに来るようになり、屋間からパチンコをし、一般のお客さんにとっては近づきたくないまちになりました。一般の人が来ないから、通天閣の経営も厳しくなり「通天閣は立っているけど、財務諸表を見たら、もう倒れる。」そんな時期もありました。

松本(秀)さん 万博の頃はまだ良かったんです。労働者が来て新世界で遊んでくれはった。でも、労働者による暴動が起こって、新世界はだめになってしまいました。
西上さん 西成のパチンコ屋が投石でガラスが割られたりしていました。でも、暴動が起こるたびに通天閣が映されるんです。悪いイメージが付き新世界には人が来なくなってしまいました。

松本(秀)さん 昭和62(1987)年の天王寺博覧会の時に、天王寺側からと動物園側からの入り口を作ったんですが、怖いまちだと言って客が来なくなり、動物園側の入り口付近の売店は、2~3か月で閉店してしまいました。

区長 新世界にとって厳しい時代が続いたんですね。日中、まちを歩く人の姿も大変少なくなったと聞いています。そんな中、市電天王寺車庫跡地に、平成9(1997)年、フェスティバルゲートができました。皆さんにとってこの大型娯楽施設はどのようなものだったでしょうか?

近藤さん 画期的な話で新世界にとって、すごく大きな出来事でした。フェスティバルゲートに来た若い子が新世界に流れてくるし、同時にスパワールドもできて、お客さんの層が若返ったことを実感しました。

区長 でも残念ながら経営破綻し、平成19(2007)年には閉園となりました。

上杉さん 失敗の1つは、南海の新今宮駅を降りた方は、JRの新今宮駅から出ることができないことです。それが解決できていたら難波から南海電鉄に乗って新世界にもっと人が来れたんです。南海とJRの間で行き来ができるように切符を共有化してほしいと思います。新なにわ筋線ができる時にはぜひ実現してほしいと思います。

「新世界」の地名に誇りを感じる今

区長 平成の時代に入ると、新世界を舞台にした映画が公開され、NHKの連続テレビ小説、「ふたりっ子」も

放送されました。新世界がテレビで紹介されることも多くなりました。

深堀り! **新世界国際劇場**
すっかり珍しくなった手書きの映画看板が郷愁を誘う映画館です。昭和5(1930)年、芝居小屋としてオープン。外観は今も演舞場時代のままで、昭和初期らしい重厚なデザインが目を引きまます。

松本(秀)さん 20年程前でしょうか。「だるま」が有名になり始めた頃から、だんだん串カツの店が増えてきました。

西上さん いまでは50数軒あるんじゃないかと思えます。

近藤さん この半世紀で、新世界は映画館のまちらからパチンコのまちになり、今は串カツのまちになっていま

新世界地域
恵美須東1~3丁目

●…昔あったもの

OsakaMetro 堺筋線 恵美須町駅
OsakaMetro 堺筋線 動物園前駅
ルナパークを囲む劇場や遊技場
恵美須東1丁目
通天閣
大橋座
新世界国際劇場
公衆座
恵美須東2丁目
恵美須東3丁目
フェスティバルゲート
OsakaMetro 堺筋線 動物園前駅
SPA WORLD HOTEL & RESORT
ジャンジャン横丁(ジャンジャンまち)
大阪市電 天王寺車庫

問合 区 総務課(企画調整) ☎ 6647-9683 ☎ 6633-8270

座談会全文はこちら

新世界地域年表

| | |
|-------------|--|
| 1889(明治22年) | ●倍楽園商業倶楽部誕生 |
| 1903(明治36年) | ●第5回内国勧業博覧会開催 |
| 1908(明治41年) | ●市電南北線(梅田-恵美須町)開通 |
| 1912(明治45年) | ●通天閣(初代)、ルナパーク開業 |
| 1913(大正2年) | ●市電霞町線(恵美須町-霞町)開通 |
| 1915(大正4年) | ●市電西道頓堀・天王寺線(桜川2丁目-芦原橋-大國町-恵美須町-天王寺西門)開通 |
| 1918(大正7年) | ●市電霞町・玉造線(霞町-阿倍野橋)開通 |
| 1938(昭和13年) | ●地下鉄御堂筋線(難波-天王寺)開通 |
| 1943(昭和18年) | ●新世界大火 |
| 1945(昭和20年) | ●爆撃により区域の約93%が消失、終戦 |
| 1956(昭和31年) | ●現通天閣(2代目)完成 |
| 1969(昭和44年) | ●地下鉄堺筋線(天神橋筋6丁目-動物園前)開通 |
| 1993(平成5年) | ●地下鉄堺筋線(動物園前-天下茶屋)開通 |
| 1996(平成8年) | ●NHK朝の連続テレビ小説「ふたりっ子」放映 |
| 1997(平成9年) | ●「フェスティバルゲート」「スパワールド」開業 |
| 2007(平成19年) | ●「フェスティバルゲート」閉園 |
| 2023(令和5年) | ●通天閣が屋外広告看板を全面リニューアル「スパワールド」リニューアル |

深堀り! **ルナパーク**
通天閣と並ぶ新世界の目玉施設。街の北側はバリ、南側はニューヨークのアムーズメントパークを模し、まちの中心にはエッフェル式高塔の通天閣が配置されました。



ルナパークの全景(写真提供:新世界112thフェス歴史部会)

区長 ルナパークがあった大正時代、新世界はどのようなまちだったのでしょうか。

西上さん 私の父は大正時代に新世界で丁稚奉公をしていて、戦後独立して、ジャンジャンまちで商売を始めました。自分が若かった頃、「子ども5銭、大人10銭で遊べる新世界」というのがキャッチフレーズで、10銭あれば活動写真(今の映画)を観て、「上(じょう)ま」※(一番良いうな丼)を食べ、コーヒーが飲めたんや、という話をしていました。※「上まむし」の略。まむしはうなぎのこと

ついでしまった「怖いまち」のイメージ

区長 しかし、まちの様子も変わってくるんですね。

浪速区制100周年記念事業
~浪速区の生い立ちを振り返ります~ vol.2

当区が陸地化した時期ははっきりわかってはいませんが、『続日本紀』によると、大阪で最古の水害として記録されているのは、孝謙天皇の時代の天平勝宝5年(753年)9月5日に、摂津国御津村を襲った高潮による水害です。「(住居)110余区を壊損し、百姓560余人を漂没す」との記録から、当時の人口に対してこの多数の溺死者は耐えがたい惨状であったに違いなく、「12月11日には遭難諸郡に対して、その年の田税を免じた。」と記録されています。

この御津村は、『摂津志』などに南区三津寺町にあてた説があり、ほぼ区内も低陸地を形成していたのではないかと推察されています。このように今から約1600年以前の当区は、上町台地からゆるやかなカーブで続く低湿地帯で、海辺と河口につながっていたと思われます。区内の町名にも、塩草、芦原、敷津、高岸などの海岸線を思わせる古い地名が、今なお残っています。

また、『類聚国史』や『三大実録』によると、光孝天皇の時代の仁和3年(887年)7月には大地震があり、建物は多数が倒壊し、死者無数に及びました。特に摂津国では「海潮漲陸し 溺死者あけて計(かそ)ふべからず」とあり、大阪湾にも地震津波の大災害があったことを示しています。

●約1800~1600年前の大阪
天満長柄の砂州が北へ延びきって、河内平野(河内湖)への海水の流入をさえぎり、河内湖は淡水湖となりました。(水都大阪コンソーシアムHPから抜粋)

問合 区 総務課(企画調整) ☎ 6647-9683 ☎ 6633-8270

なにわマニア話 vol.4 **新世界地域**

■通天閣の先輩?知られざる望遠楼(大林高塔)

新世界名物といえば通天閣ですが、実は通天閣以前に「望遠楼」こと通称「大林高塔」というタワーが建っていたことはあまり知られていません。明治36(1903)年に開催された第五回内国勧業博覧会の際に大林組が建設した高さ150尺(約45メートル)の木造で、「電気昇降機」(エレベーター)で約1分で頂上に達しました。当時は高層建築物が少ない時代なので「余りの高さに気の弱い婦人方は忽ち眩暈のもとなれば先ず二階辺にて我慢さるべし」(『明治三十六年博覧会之葉』)なんて注意書きも残っています。大阪平野が一望できて大人気でしたが、入場料は15銭で博覧会の短期間だけでは収益が上がらずに赤字でした。この博覧会跡地に明治45(1912)年遊園地「新世界ルナパーク」が開業し、通天閣が建てられます。「これ(大林高塔)がヒントとなり、のちに通天閣がたてられた」と『大林組八十年史』にあります。まさしく大林高塔こそは通天閣の先輩タワーといえるでしょう。

望遠楼・大林高塔 出典:『第五回内国勧業博覧会記念写真帖』

案内人
むっさとし 陸奥賢さん
観光家/コモンズ・デザイナー/社会実験者